

アントクメ天然採苗

アントクメはコンブ目カジメ科に属する1属1種の一年生種で、日本沿岸において最も低緯度に分布しているコンブ目の海藻です。葉状部は、笹の葉形、長楕円形、卵形など様々で、葉面には皺や膨らみや白い斑が見られます。葉状部の大きさは葉長60~100cm、葉幅40~60cmにもなります。このアントクメは西伊豆地区ではしわめやとんとんめと呼ばれて、漁獲されていました。漁獲したものは乾燥させて豆などと一緒には煮ものにしたり、生のままメカブの様に一度湯に通して包丁で叩いたりして食されています。以前は漁港の岸壁にもびっしりと着生し、邪魔になるほどはえていましたが、近年激減しています。

そこで、地域の特産品を守るため、西伊豆地域の漁業者が共同でアントクメ(しわめ)を種苗育成する試みが行われました。漁業者の活動を助けるため、伊豆分場では2022年9月7日に稲取漁港の岸壁に生育するアントクメの近傍に採苗ロープを設置し、天然採苗に挑戦しました。その結果、2023年1月20日に採苗ロープにアントクメの着生を確認することができました。さらに2月16日には新たな個体の着生と1月に着生した個体の成長が確認されました。1月20日の測定時は約3cmであった個体が2月16日には約18cmに成長していました。最終的には3月1日に採苗ロープを回収したところ、大きさ6~34cmの種苗を合計20個体採取することができました。

採取した種苗は漁業者に提供し、西伊豆地区にて養殖ロープによる海上育成が行われています。アントクメが養殖され、地域の漁業振興につながることを期待しています。

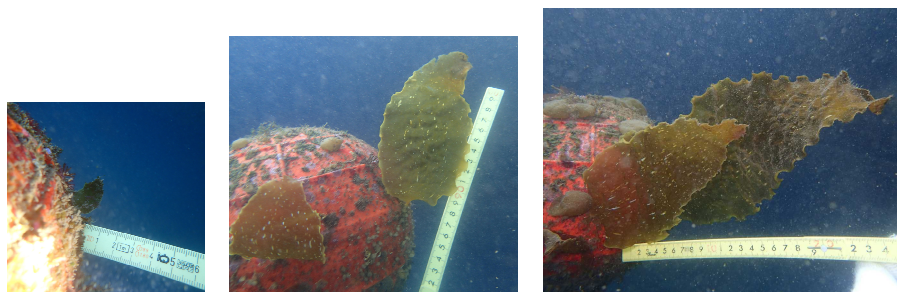


図1 採苗ロープのアントクメ。

(左)2023年1月20日、(中央)2月16日、(右)3月1日

(角田充弘)